

## 岩見沢市における公立学校情報機器整備に係る各種計画 【校務DX計画】

本市における校務DX計画については、文部科学省「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言や「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果等を踏まえ、次世代の校務DX化に向けて、教育委員会及び学校が教育DXを推進する際に取り組むことが望ましい項目を実現するために、以下に掲げる事項を重点的に推進する。

### (1) クラウドツールの活用

学校内の連絡については、汎用クラウドツール（Google Workspace 等）を活用し、教員のスケジュール、児童の欠席及び早退情報等の情報共有を円滑にするほか、資料の配布や各種連絡にチャットツールなどのグループウェアを活用することで、コミュニケーションの迅速化や活性化を可能とし、校務の負担軽減を図る。

なお、教員と児童生徒間の各種連絡についても、クラウドツールを活用し、時間割や各種イベント等の周知をデジタル化するほか、調査・アンケートについても汎用クラウドツール（フォーム等）を活用することで、紙媒体の印刷や集計作業等の省力化を図る。

また、先進地域の事例紹介や研修会の実施など更なる活用に向けた推進を図る。

### (2) 不必要な手入力作業の廃止

教員と保護者間の連絡に保護者連絡ツールを導入し、児童生徒の欠席や早退連絡、配布物などをデジタルでやり取りしている状況であるが、保護者連絡ツールと校務支援システム間で連携はしていないため、名簿情報が二重登録になっているほか、保護者連絡ツールで受けた情報を校務支援システムに転記している状況であることから、令和7年度に校務支援システムへの連携機能を導入し、不必要な手入力の一掃を図る。

また、その他の業務においても、不必要な手入力作業がないか点検し、随時廃止に向けデータ連携方法を検討する。

### (3) 次世代の校務支援システムの導入について

令和2年度より北海道が推奨する校務支援システムを導入し、校務の情報化や教職員の人事異動に伴う負担軽減を図っている。

しかし、現行システムは、閉域網で運用しており、限定された場所及び端末からでしかアクセスできず、教職員の柔軟な働き方への対応が難しいことが課題である。

本課題については、令和7年度より現行システムがアクセス制御等セキュリティ対策を講じたクラウド対応への可能となることから、今後学校ネットワークの統合などを見据えて順次移行することとする。

### (4) 学校ネットワークの統合について

教職員の働き方改革を推進するため、文部科学省「教育DXに係る当面のKPI」で掲げる「教職員の働き方改革にも資するロケーションフリーでの校務処理」が必要であることから、令和11年度までに学習系と校務系ネットワークの統合を図るほか（ゼロトラスト環境）、あわせて指導者用端末と校務用端末の一体化を図る。

なお、ゼロトラスト環境の構築は、ネットワーク設計等が必要なため、段階的な整備を行うことも想定する。